

佐賀県研究成果情報（作成 2026年1月）

[情報名] カボチャ品種「くり大将」「栗のめぐみ1号」は重粘土質土壌（灰色低地土）でトンネル栽培の適応性がある

[要約] 「くり大将」「栗のめぐみ1号」はトンネル栽培を行い、3月20日頃に定植することで、6月中旬から収穫可能となる。「くり大将」は収穫後1週間で糖度が高いため早期出荷に向く。「栗のめぐみ1号」は収穫後3週間以降糖度が高くなることから貯蔵後の出荷に適し、短節間を有するため、株元着果率が高く、収穫にかかる時間が短い。両品種ともに重粘土質土壌でのトンネル栽培の適応性がある。

[キーワード] カボチャ、トンネル栽培

[担当] 佐賀県農業試験研究センター・白石分場・露地野菜研究担当

[連絡先] 0952-84-5169・nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 土地利用型作物

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

重粘土質土壌での露地カボチャ栽培は、長雨による腐敗のリスクが高く安定生産が難しい。そこで、トンネル栽培により、収穫時期を早めるとともに、追熟が不要な早生品種や省力的な栽培が可能な短節間性を有する品種の重粘土質土壌での適応性の検討を行った。

[成果の内容]

1. トンネル被覆し、3月20日頃に定植を行うことで、6月中旬から収穫が可能となり、「くり大将」で反収1,675 kg～2,338 kg、「栗のめぐみ1号」で反収1,806 kg～2,764 kgとなる（表1、図1）。
2. 「くり大将」は収穫約1週間後の果実糖度が11.4～12.4度と早くから糖度が高くなり早期出荷に向く。「栗のめぐみ1号」は収穫約3週間後に果実糖度11.8～12.9と貯蔵後に糖度が高くなるため貯蔵後の出荷に適する（表1）。
3. 「栗のめぐみ1号」は短節間性を有し、株元着果率が62%と高く、株元に着果しやすいことから、収穫や台座敷・日焼けテープ貼り付けに要する時間が短く、従来のカボチャに比べ、省力的な栽培ができる（表2、3、図2）。
4. 両品種の経営試算を行った結果、契約栽培の指定品種である「くり大将」で6月に契約出荷を行った場合が最も10aあたりの収益が高くなる（表4、5、6）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内のトンネル作型カボチャの有望品種候補として活用できる。
2. 本試験のトンネル資材は有孔のユーラックカンキ UK50A フィルム幅210 cmカンキ4号を使用した。定植直後から温度が上昇する4月20日頃まで被覆を行った。
3. 風が強い圃場では、果実につる傷や細菌性病害が発生しやすいので、作付けを避ける。また、定植時期が極端な低温の場合は、霜による障害が発生する場合があるので定植時期を数日遅らせる。
4. 果実斑点細菌病に果実が罹病すると、突起により外観が悪くなるため、開花1週間頃前の4月中旬頃から1週間おきに2～3回銅水和剤による防除を行う。
5. うどんこ病による落葉、つる枯れ病による貯蔵腐敗を防ぐため、開花20～30日頃に本病を対象とした防除を行う。
6. およそ気温が30℃以上の高温時には、果実に日焼けが発生するため、高温が予想される場合には、陽光面にクラフトテープの貼り付け等の対策を行う。

[具体的なデータ]

表1 トンネルカボチャの収量及び品質 (2024~2025年度)

品種	年度	定植日	収穫開始日	規格内収量 (kg/10a)	平均果実重 (kg)	果実糖度 (Brix)		果実水分率 (%)	
						収穫約1週間後	収穫約3週間後	収穫約1週間後	収穫約3週間後
くり大将 (早生種)	2024	3/21	6/14	1,675	2.1	11.4	-	-	-
	2025	3/22	6/18	2,338	2.3	12.4	-	67.2	-
栗のめぐみ1号 (短節間種)	2024	3/21	6/14	1,806	1.7	9.0	12.9	-	-
	2025	3/22	6/18	2,764	2.2	9.3	11.8	64.8	69.0

注1) 畝幅1.6m、株間45cm、収量については、株あたりの収量から、10aあたり720株で算出。
 注2) 「くり大将」は親つる一本仕立てで一方向に誘引を行った。「栗のめぐみ1号」は放任栽培とした。
 注3) 2024年度は2025年度に比べ、3月20日~6月15日までの日平均気温の積算が約100度高い。

表2 トンネルカボチャの着果特性及び生育 (2025年度)

品種	株元着果率 (%)	1番果着果節位	平均着果数 (個/株)	つる長 (cm)		草丈 (cm)
				5月1日 (開花期)	6月18日 (収穫期)	5月1日
くり大将 (早生種)	7.0	14.2	1.8	318.6	376.0	53.2
栗のめぐみ1号 (短節間種)	62.2	11.3	2.1	136.3	317.5	82.3

注1) 株元着果率：株元から45cm以内に着果した果実の割合

表3 10aあたりの延べ労働時間 (2025年度)

作業項目	延べ時間 (h)	
	くり大将	栗のめぐみ1号
育苗・圃場準備・定植・灌水	59	59
トンネル換気・防除	16	16
誘引・整枝・摘心・授粉	22	13
台座敷・日焼け対策	17	10
収穫	18	9
その他	6	6
計	138	113

表4 6月出荷「くり大将」の契約栽培による経営試算

	2024年度 反収1,675kg	2025年度 反収2,338kg	反収2t (目標)
売上高	284,750	397,460	340,000
生産経費	149,034	149,034	149,034
所得	135,716	248,426	190,966

注1) 売上高は、契約単価170円/kgで算出
 注2) 生産経費のうちトンネル資材は3年使用で算出
 注3) 出荷時期が遅くなると単価が下がる恐れがある

表5 6月出荷「くり大将」の市場出荷による経営試算

	2024年度 反収1,675kg	2025年度 反収2,338kg	反収2t (目標)
売上高	335,000	467,600	400,000
生産経費	149,034	149,034	149,034
出荷経費	75,375	105,210	90,000
所得	110,591	213,356	160,966

注1) 売上高は、他県産かぼちゃの単価を参考に、単価200円/kgで算出

注2) 生産経費のうちトンネル資材は3年使用で算出

注3) 出荷経費は2,000kgあたり90,000円で算出

表6 7月出荷「栗のめぐみ1号」の市場出荷による経営試算

	2024年度 反収1,806kg	2025年度 反収2,764kg	反収2t (目標)
売上高	325,080	497,520	360,000
生産経費	149,034	149,034	149,034
出荷経費	81,270	124,380	90,000
所得	94,776	224,106	120,966

注1) 売上高は、過去5年間の佐賀県産の平均単価180円/kgを元に算出

注2) 生産経費のうちトンネル資材は3年使用で算出

注3) 出荷経費は2,000kgあたり90,000円で算出



図1 トンネル栽培

(令和7年3月24日撮影)



図2 「くり大将」「栗のめぐみ1号」の生育比較

(令和7年4月22日撮影)

[その他]

研究課題名：収益性が高い有望な露地野菜の作期拡大および安定生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2024～2025年度

研究担当者：竹下大樹・下古場陵一・北原ミチル